

苦しみは自分がつくり出していたものだとこのごろつくづく実感します。私は充分過ぎるくらい幸せの中に存在していました。生まれた時からもう幸せと喜びの中にあっただのに、自分でどんどん苦しみを膨らませてきたのです。田池留吉に出会わなかったら、今だに苦しい日々を重ねていたでしょう。今ようやくこんなに幸せでいいのだろうかとの自分の幸せに気付き始めています。間違っただけばかりしてきた私が、田池留吉に唾を吐きかけ後ろ足で砂をかけてきた私が許されていることが奇跡のように嬉しいのです。心の中の真っ暗な闇も、苦しい反面何か喜んでいるのを感じます。待つ待つ待つ待ってたんだよと私が田池留吉に素直な心で向き合っていくのを喜んでいるようなのです。一緒に田池留吉に帰っていいこう、今まで冷たくてごめんと語りかけています。イライラしないんです、寂しくないんです、何か心のそこから安らぎと喜びがフワーと湧いてきて、嬉しい日々を過ごしています。闇の存在も愛だったと思っています。闇を嫌ってきた自分、自分に一番冷たい心でした。

田池留吉に心を含ませていくことが、大きな変化をうんでいくことに、あらためて驚嘆しています。田池留吉、アルバートとともに歩んでいくことが最高の幸せです。